

養之料、社地には遷宮之料、扱又凶事には茶毘之運上、法事には僧供養料、是等は古上江之被召上所之に物成に候を、御憐愍ヲ以警者どもへ被下置猶又武家方之憐愍に而國譲り新地加増番入役替所替任官入部入國之祝儀を被下置猶又檢校勾當へは、座中之官物を被下置、配分仕申候然處應仁文明之頃より諸國大亂打續、中絶におよび候處難有も東照宮様天下御一統に被遊候節、伊豆總檢校罷出、御禮申上候得而、座中古代之儀、一々申上候得者、古來之通、向後官物者檢校勾當に被下置之旨被爲仰付、天下泰平御祝儀を千貫文頂戴被爲仰付、猶又御家門方より御譜代衆にも、右之御祝儀被差出様之旨上意被成下、夫より如古來檢校勾當は配分仕、四度以下之座頭どもは御吉凶之配當、御代之御上様被下置、尤御大名御旗下衆御格式御相應に被下、町人百姓迄吉凶之配當差出候故、檢校勾當座元迄、渡世を安く仕候、御上之御尊思と、座中一統朝暮難有仕合奉存候。

倉村配當頭
松之都

〔鹽尻〕文盲者の説に、昔朝家盲人を愍み給ひて、上加茂封境の中に田疇を置いて、歸する所のなき盲人を扶持し給ひしと也、又日向國に、官稻ありて、衆盲を養ひ給ふ食に充給ひしと云も、是又悲田療病院の類なるべし、昔天王寺の向ヶ院に、攝津河内兩州のに官稻三千束を費用に賜りし事、古記に見へ侍る、然れ共性佛已來、如一、覺一等が如きは、又別にや、殊に覺一は明石檢校とも稱し、尊氏將軍の族なりし、是より盲人世に威有と云、況や城了が族者、聞雨の歌、

夜の雨の窓をうつにもくられければ心はもろき物にぞありける、天廳に達し、雨夜と勅號を下されし後小松院御賜也とかや、盲人の事書たるものに、光孝天皇の皇子に明を失ひ給ひしありし、雨夜の御子と稱せしと云々、帝記を考ふるに、光孝三十六子にして、雨夜といふ皇子なし、思ふに雨夜の城了が事を傳へ誤れるにや、光孝帝を小松の帝と稱す、城了に、雨夜の號を被下しは、後小松帝